

つやま近代建築 おでかけMAP

津山まなびの鉄道館(旧津山扇形機関車庫)

レトロな建物探訪に出かけよう!

津山の街を歩くと、「あれ、こんなところにレトロな建物が」と気づくことがあります。

津山は、古くは京都の豪商角倉了以も注目した高瀬舟で栄えました。明治31年になると、県内二番目の鉄道が岡山から今の津山口駅まで開業しました。そのため、建物の近代化は津山口駅に直結した城西地区(重要伝統的建造物群保存地区)から始まったと言われています。

このマップでは、そういった近代(明治時代から第二次世界大戦終結まで)を中心とした、津山市内の西洋・洋風・和風建築や鉄道遺産を取り上げました。建物の歴史は、その時代に生きた方々の歴史でもあるため、それぞれの建物にまつわる人物のエピソードにも触れました。

一度訪れたことのある建物でも、新たな発見があるかも。マップを片手に、津山の近代文化の再発見をしてみませんか。



1 城西浪漫館 (旧中島病院本館)

もう一度東京で研究したい。そう考えていた中島琢之(たくし)医師(1885・明治18年～1956・昭和31年)を津山に引き留めるため、妹尾銀行頭取・妹尾順平らが建てた病院には、レントゲン室など当時の最新設備も完備されていました。建物の正面はコリント式オーダーのポーチを中心に左右対称。壁は古代紫のモルタル掻き落とし。ドーム型鱗(うろこ)屋根にのる尖塔(せんとう)、ポーチや窓のデザイン、部屋ごとに変えられた天井や暖炉の設計と、建物は意匠にあふれています。



▲津山藩医 宇田川榕菴(ようあん)にちなんだ「榕菴珈琲」が楽しめます。



津山市田町122 ☎0868-22-8688 休/月曜日、年末年始
竣工/1917(大正6)年 設計/池田豊太郎 指定等/登録有形文化財
見学/外観は随時可、内部は9:00～17:00、まちの駅城西浪漫館 So's Cafeは10:00～16:00



2 津山文化センター

津山城天守は1874(明治7)年に取り壊されました。その津山城跡の一角に建つのが津山文化センターです。本館は昭和の築城をイメージし、上層部に行くほど張り出した軒をプレキャストコンクリートの斗拱(とこう)で支える逆ピラミッド形で設計され、城跡の石垣と見事に對比させています。各所に見られる構造の粋は木村俊彦の巧みな計算が生み出したものです。ホールやホワイエ、別館、庭では白石斎(しらいしひとし)や栗津潔(あわづきよ)の作品と意匠が、川島甲士(こうじ)の代表建築を際立たせています。



津山市山下(さんげ)68 ☎0868-22-7111 休/木曜日、年末年始
竣工/1965(昭和40)年 設計/川島甲士
指定等/産業遺産学会推薦産業遺産 見学/外観は随時可、内部は照会が必要

4 津山まなびの鉄道館 (旧津山扇形機関車庫)

転車台を中心に扇子(せんす)を広げた形をしているため、扇形庫(せんけいこ)と呼ばれます。鉄道黄金時代が始まった明治時代末期から、全国の主要駅に数多く建設された蒸気機関車の車庫です。津山駅には1923(大正12)年に矩形庫(くけいこ)が建てられ、鉄道網が完成した1936(昭和11)年、扇形庫に建て替えられました。転車台桁は、1929(昭和4)年福島製作所製二輪式電動牽引機を備えた全長18,280mmの60フィート下路式(かろしき)「G2-1」です。

津山市大谷 ☎0868-35-3343
休/月曜日、祝日の場合はその翌日、12月29日～12月31日
竣工/転車台1930(昭和5)年、扇形庫1936(昭和11)年
設計/鉄道省 時間/9:00～16:00(入館は15:30まで)、入館料が必要
指定等/鉄道記念物、経済産業省近代化産業遺産、産業遺産学会推薦産業遺産



5 津山市城西伝統的 建造物群保存地区

城西地区は旧城下町西部の寺町と、出雲往来沿いの商家町からなります。寺町は江戸時代の町割をよく残し、出雲往来と南北街路に沿って13の寺があり、商家町には江戸時代後期から昭和30年代までに建てられた家々が軒を連ねています。中国鉄道が開業した1898(明治31)年からは津山の玄関口となり、旧土居(い)銀行津山支店(作州民芸館)や翁橋(おきなばし)も完成。通りは大いに賑わいました。今も各時代の建築様式を見ることが出来ます。

津山市坪井町、上紺屋町、宮脇町、西今町、西寺町、茅町、鉄砲町、小田中の各一部
☎0868-32-7000(津山市歴史まちづくり推進室)
形成/江戸時代以降
指定等/重要伝統的建造物群保存地区 見学/随時可



6 作州民芸館 (旧土居銀行津山支店)

土居銀行は1897(明治30)年、県会議員などをつとめた土居通信(みちのぶ)が設立し、本店を西北条郡田邑村(にしほうじょうくんのむらそん、現在の津山市)におきました。この建物は、土居銀行津山支店として造られたものですが、現在の正面デザインは竣工時のものと異なります。変更時期はまだよくわかっていません。西洋建築に見られる左右対称で、バロックあるいはレイト・バロック様式に近いデザインです。

津山市西今町18 ☎0868-24-6690 休/月曜日、祝日の場合は翌日
竣工/1909(明治42)年 設計/江川三郎八(さぶろうはち)
指定等/登録有形文化財 見学/外観は随時可、内部と津山まちの駅城西(作州民芸館)カフェは9:00～17:00(入館は16:30まで)



7 岡山県立津山 高等学校旧本館 (旧岡山県津山尋常中学校本館)

岡山県内にはまず三つの旧制中学校ができましたが、建物が残っているのは津山だけです。岡山県津山尋常中学校は1895(明治28)年の開校。本館や教室棟などは1900(明治33)年に完成しました。日本の近代建築は、地方の棟梁らが見様見真似(みようみまね)で建てた「民の系譜」、政府が主導した「官の系譜」に始まりました。学校建築の基礎は文部省の建築家・山口半六(はんろく)や久留正道(なごみちみち)らが固めました。旧本館にはその官の系譜の特徴が各所に残されています。

津山市橋高下(つばさこうげ)62 ☎0868-22-2204 休/学校休業日
竣工/1900(明治33)年 設計/一説に山口半六、久留正道
指定等/国指定重要文化財 見学/1週間以上前の事前予約が必要



8 森本慶三記念館 (旧津山基督教図書館)

森本慶三(1875・明治8年～1964・昭和39年)は津山城下に生まれ、東京で思想家の内村鑑三(かんぞう)に師事しました。帰郷後は家業の津山銀行などを継ぎ、キリスト教の伝導と社会教育のため、私財を投じて図書館を建てました。桜庭駒五郎(さくらばこごろう)は、備前市の香登(かがと)教会堂も手がけた青森県弘前市の教会建築家です。木造二階建。塔屋(とうや)尖塔(せんとう)上部を時計台とし、両面にはイオニア式ピラスター(付け柱)や新約聖書にちなんだレリーフが飾られています。

津山市山下(さんげ)98-1 ☎0868-22-3518 休/3・7・9月は月曜日、6月と11月～2月は月・火曜日、12月29日～1月2日 竣工/1926(大正15)年
設計/桜庭駒五郎 指定等/登録有形文化財
見学/外観は随時可、内部は9:00～17:00(入館は16:30まで)、入館料が必要



3 PORT ART&DESIGN TSUYAMA (旧妹尾銀行林田支店)

妹尾銀行を設立した妹尾順平は銀行経営に新風を吹き込んだ人物でした。妹尾が設計にもこだわった林田支店と林野支店の2棟はいまも威容を誇っています。林田支店は日本の伝統的寺社建築である禅宗様(ぜんしゅうよう)を思わせます。入母屋(いりもや)屋根には庇(ひさし)がめぐらされ、木造平屋建ての内部大空間には榎材(えのき)の柱、吉野杉の格天井(ごうてんじょう)、屋久杉の壁、檜(ひのき)の装飾といった贅(ぜい)が尽くされています。銀行としての役目を終えた後、津山海洋資料館としても使われました。現在はアートギャラリーとして公開されています。



津山市川崎823 ☎0868-20-1682 休/火曜日、祝祭日の次の平日、年末年始
竣工/1920(大正9)年 設計/池田豊太郎 指定等/津山市指定重要文化財
見学/外観は随時可、内部は10:00～18:00



9 津山市城東伝統的 建造物群保存地区

C11形蒸気機関車は1932(昭和7)年からの12年間に381両製造され1948(昭和23)年、津山機関区にも配属されました。そのうちの80号機は岡山国体のお召し列車、津山線と日中線のさよなら列車を引きました。

津山市横山 JR津山駅前
完成/1935(昭和10)年
設計/島秀雄
製造/日立製作所笠戸工場
見学/随時可



城東地区は城の東を流れる宮川の東側、出雲往来に沿って形づくられた商家町です。江戸時代の町割がよく残り、往来側の屋敷は間口2間(けん)から4間ほどで割り付けられ、敷地背面に掘られた背割溝(せわりみぞ)も現存します。往来を行くと、道路が折れ曲がる「枳形(ますがた)」が二箇所あり、旧菊田(きくた)家住宅や箕作阮甫(みづくけんぽ)旧宅、城東むかし町家が迎えてくれます。出格子窓(でごうし)や虫籠窓(むしこまど)、海鼠壁(なまこかべ)、袖壁(そでかべ)といった昭和戦前期までの意匠も、景観に華を添えています。

津山市橋本町、林田町、勝間田町、中之町、西新町、東新町の各一部
☎0868-32-7000(津山市歴史まちづくり推進室) 形成/江戸時代以降
指定等/重要伝統的建造物群保存地区 見学/随時可



10 城東むかし町家 (旧梶村家住宅)

梶村家は1695(元禄8)年ごろ出雲往来南側に居を構え、1871(明治4)年に「梶村」を名乗りました。代々が県会議員や銀行、ガス会社、製紙会社などを営み、美術歌壇の発展にも努めました。屋敷は堀で囲まれ、表門は主屋の西側にあります。主屋は江戸時代末期の建造で、背後の付属家屋は明治時代の増築です。大正時代に入母屋造(いりもやづくり)の座敷、ドイツ塗壁(ぬりかべ)の洋館と裏座敷、東蔵、昭和時代初期には西蔵、中庭を望む茶室が加わりました。

津山市東新町40 ☎0868-22-5791 休/火曜日、火曜日が祝祭日のときはその翌日、年末年始 竣工/江戸時代末期から昭和時代初期 指定等/主屋、付属屋、座敷、洋館・裏座敷、東蔵、西蔵、茶室、表門は登録有形文化財。旧梶村氏庭園は登録記念物
見学/外観は随時可、内部は9:00～17:00(入館は16:30まで)



提供:江見写真館